

緑丘さつぽろ

第98号 ■平成27年1月1日
編集 ■緑丘会札幌支部広報委員会
札幌市中央区北5条西5丁目 sapporo55 3F
http://www.ryokyukai.com/
E-mail:ryokyukai@galaxy.ocn.ne.jp
印刷 ■岩橋印刷株式会社



富岡教会と小樽遠望
鈴木市男(昭和32年卒)

平成27年(2015年) 緑丘会札幌支部 新年交礼会のご案内 明けましておめでとうございます



会員各位におかれましては益々ご壮健にて新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

本年の「新年交礼会」を右記の要領で開催いたします。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

*お席の準備上、ご出席の方は各年度幹事または支部事務局までご連絡ください。

●とき 平成27年2月11日(水・祝)
午後2時より

●ところ ホテルポールスター札幌 2階
(中央区北4条西6丁目 ☎241-9111)

●会費 5,000円

●講演 「働く」を、もっと楽しく!面白く!

講師: 吉田 理宏 氏
よしだ みちひろ

WAYOUTカンパニー株式会社 代表取締役
(昭和61年卒)

●ご招聘 瀬戸 篤 先生(アントレプレナーシップ専攻)

お問合せ・申込み 緑丘会札幌支部 ☎/FAX: 011-231-6900
MAIL: ryokyukai@galaxy.ocn.ne.jp

目次

ごあいさつ	2~4	卒業20周年記念同期会	8
小樽商科大学応援団第百代を迎えて	5	32会「傘寿の会」盛大に開催	9
衰えを知らぬ純なハーモニー	6	第8回 MBA交流会のご報告	9
年度幹事の役割は「世代間仲人」	6	緑丘ゴルフ会だより/活動報告囲碁/	
マジプロ「緑丘会ネットワーク強化チーム」	7	緑丘サテライトセミナー報告	10
弓道部創部100周年記念祝賀会	7	女子部会報告/エバーグリーン講座日程	11
昭和39年卒 50周年記念同期会	8	編集後記	12

あけましておめでとうございます

緑丘会札幌支部
支部長

田尾 延 幸
(昭和43年卒)



緑丘会の皆様は健やかに新しい年を迎えられたことと存じます。昨年末の総選挙など今は一日たりとも安穏な状況ではありません。今年もいろいろなことが起こると思いますが、「想定外」という言葉を使う必要のない社会でありたいものです。緑丘会札幌支部の改革も未だ十分ではありません。緑丘会が単なる懇親会に留まればいいのか、それ以上の目標を掲げるべきか、年頭にあたり熟慮したいと思います。毎年5百余名に及ぶ卒業生が緑丘会に入られます。うち女性会員が4割を占める現状を考え、従来の組織の延長では難しいという認識で副支部長に女性を、さらには職域副支部長等を増やしてまいりました。また、有志による各種催しなどそ野は確実に増えておりますが、まだまだ十分な活動ではありません。

今抱える課題は

1. 新年交礼会、定期総会への平成世代の出席者の増大
2. 年会費の納入率の引き上げ
3. 個人情報保護法に沿った通信手段の構築
4. 現役学生との交流の拡大
5. 道内各支部との交流
など、数多くあります。

そのためには

1. 少しお金をかけて魅力ある催し物を立案し、
参加してみたいと思える会にする
2. 銀行振込みとコンビニ振込みを併用する
3. 会員限定のセキュリティに配慮した通信手段を構築する
4. 各総会に各年次の学生を招待する
5. 道内の緑丘会各支部長会議を検討する

など、本年は出来るものから実施してまいります。

皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます、新年のご挨拶といたします。



2014年新年交礼会の様子



ご宿泊・ご宴会予約受付中

時計台の鐘の音にいただける ハートウォームホテル

SAPPORO
すみれホテル

札幌市中央区北1条西2丁目 TEL 011-261-5151
URL <http://www.sumirehotel.co.jp>
JR札幌駅より徒歩約8分・地下鉄大通駅より徒歩約3分



小樽商科大学の将来



小樽商科大学長
和田 健夫

新年あけましておめでとうございます。OB・OGの皆様のご健勝をお祈りいたします。今年もどうぞよろしくお願いたします。

昨年4月に山本眞樹夫前学長の後を継いで学長に就任して以来、瞬く間に時間が過ぎました。現在、各国立大学は、文部科学省が一昨年の11月に出した「国立大学改革プラン」のもとで、前回お話ししました「ミッションの再定義」を踏まえ、各大学の強み・特徴を伸ばす方向で改革を行っています。文部科学省から示された本学のミッションは、実学の精神に基づいた教育とグローバルな視点を持ち北海道経済の発展に貢献できる人材育成を行うこと、また、研究の面では、社会科学分野における研究実績を生かし地域の課題解決・文化の発展に組織的に取り組み、北海道経済の活性化に寄与する研究を一層促進することとされています。

これらは、いずれも、開学以来、歴代の学長のもとで私たちが自覚的に進めてきたものです。今後も、本学の特徴、すなわち、①一つの学部には人文・社会・自然科学の分野を専攻する教員が集まり、交流や連携が日常的に行われているという商科系単科大学としての利点、②緑丘会・OB・OGからの絶大なる支援、③ビジネス創造センターや専門職大学院の活動を通じてつくられた産業界・自治体等とのネットワークなどを最大限生かして、改革を実行していきたいと考えております。

大学の使命は、知識の創造とその継承にあります。経済の成長が鈍化し、グローバル化・少子高齢化の進展のもとで国の発展を図らなければならない時代においては、必然的に、高等教育研究機関である大学への期待、要請が高まります。小樽商科大学が「北の一星」として輝き続け存在感を維持するために、私は、最大限の努力をいたしたいと考えています。ご理解とさらなるご支援を賜れば幸いです。

クリーンディーゼル×4WD
もラインナップ!

CAR OF THE YEAR JAPAN 2014-2015
日本カー・オブ・ザ・イヤー受賞

2014-2015
日本カー・オブ・ザ・イヤー受賞
日本カー・オブ・ザ・イヤー実行委員会主催
受賞対象: マツダ デミオ 発売日: 2014年10月13日

NEW Mazda デミオ

Photo: XD Touring L Package
Body Colors: シルバレットプレミアムメタリック

北海道マツダ販売株式会社 代表取締役会長 横井 久(昭和32年卒) 〒060-0032 札幌市中央区北2条東1丁目 TEL.011-221-9181
ホームページアドレス <http://www.hokkaido-mazda.co.jp>

改革の渦中にて

小樽商科大学理事・副学長
鈴木 将 史



本年度より理事・教育担当副学長職を拝命いたしました鈴木です。冒頭唐突ですが、私には先日他界した叔父がおり、本学の前身小樽高商を卒業した実直な銀行マンでありました。私の父は、叔父が高商生だった頃、小樽のキャンパスを訪れ、浜林生之介教授の後ろ姿をたまたま垣間見たことがあり、生前、その様子をよく私に話してくれたものです。浜林先生に象徴される如く、当時の道内語学教育界の頂点に位置していた本学に、私が奉職することになろうとは露ほども思っておりませんでした。更に今、こうして役員の仕事を引き継ぐこととなり、その重責を日々痛感しております。

私は昭和56年に北海道大文学部独語独文学科を卒業し、同大大学院、西ドイツミュンヘン大を経た後、平成元年に広島大文学部に助手として採用され、その2年後、講師として本学に赴任いたしました。私が学んだ北大は、大規模国立大の例にもれず、理系をメインとする大学で、文学部といえどもあまり文学の香りはしませんでした。広島大文学部は旧制広島文理大の流れをくむだけに、なんともいえぬ文系の雰囲気立ち込めておりました。そして更に本学は、文系のエッセンスを凝縮した大学として、私にとっては少なからず肌に合う大学です。昨今国立大学は、改革要請の荒波に晒されており、中でも社会科学系大学・学部には、財界を始めとする世論から厳しい注文がつけられています。しかし、北の大地から国際人を育成しようとする本学の伝統的教育方針は、実社会や文科省から高い評価を得てきた実績を誇ります。ここしばらく、改革に明け暮れる日々が続くことと思いますが、OB・OGの皆様方には、これからも本学の行く末を温かく見守って頂きたく、何卒宜しくお願い申し上げます。



お客さまが日々、どんなことで困り、どんな不安を感じているか。
その一つひとつに、社員一人ひとりが想いを巡らせながら、
お客さまのことをイチバンに考えて、しっかりとお応えしていきます。
この国で、最も信頼される保険会社であるために。
私たちのこれからの取り組みに、どうぞご期待ください。

安心のために できることのすべてを



損保ジャパン日本興亜

小樽商科大学応援団第百代を迎えて

小樽商科大学応援団第99代団長
第百代記念式典実行委員長

堀井隼斗



私たち小樽商科大学応援団は、平成26年に第百代を迎えました。団員の減少により、一度は歴史が途絶えてしまった応援団。しかし、今まで引き継いできた想いや伝統がなくなってしまうと危惧したOBの方々、そして先輩方の尽力により見事復活を遂げました。今、百代を迎えられるのも、百有余年の間、

応援団を支えてくださった偉大な先達の方々がいらっしゃったからこそです。今まで我々と関わり支えてくださった方々に感謝の気持ちをお伝えしたい、そして時代の変遷とともに学内の雰囲気も様変わりした商大の「今の応援団」の姿を知っていただきたい、その想いで私たちはこの百代式典を行うこととし、2年前から準備を重ねてきました。

日時は、10月12日(日)14時30分、場所は、小樽市民会館、第98代参謀田口さんの司会により式典は始まりました。緞帳が上がり壇上に応援団が姿を現しました。客席にいらした300人近い方々の大歓声を耳にした時、改めて「自分たちは百代を迎えたのだ」と感じ胸が熱くなりました。

商大校歌を斉唱した後、私が挨拶をしましたが、その中で尊敬する先輩からいただいた言葉をお話させていただきました。それは、自分が高校時代に団員となった時から心に刻んでいる、応援団としての目標、指針となっているものです。

「応援団は相手を応援するだけではなく、応援される応援団でなくてはならない」。この言葉に込められたものは、応援団は自分たちだけで応援するのではない、決して独りよがりになってはいけないという強い戒めでした。長年胸に秘めていたこの教を披露したところ、大きな拍手をいただきました。式典後、「立派な挨拶だった」とお褒めの言葉も頂戴し、改めて先輩の御教養に感謝致しました。

胡蝶の舞では、第74代副団長八十島さんと現役団員との時代を超えた共演となり、大いに会場を沸かせました。さすがは八十島先輩、扇子を置いてから四半世紀が経つにも拘わらず、舞のキレは衰えていませんでした。

更に、積年の念願であった「南蛮踊り」が復活しました。この踊りは女形が対面式で踊っていたのですが、団員不足で傳承者がいなくなり、長く途絶えたままでした。50年前の対面式で舞われた第50代副団長の渡邊捷弘先輩がはるばる島根県大田市から駆け付け、直接私たちに稽古をつけてくださり、そのお蔭で約30年振りに復活させることができたのです。

商大応援団は1912(明治45)年5月の東北帝大農科大学(現北海道大学)との野球戦を起源としています。会場には北大応援団の団員、関係者が多数お集まりくださいました。団長の檄文は、これからはOBの力に頼らず自分たちの力で団を発展させ自立の道を進んで行くこと、そして50年、100年先も応援団の歴史を紡いでいき、次は二百年式典を行うぞ!という心強い内容でした。百代団長西垣のこの言葉を聞き、時代や小樽の雰囲気が変わっても、商大の象徴である応援団を絶やすことなく存続させていかなければならない、百年続いてきた団長というバトンを何年も何十年も受け継いでいって欲しいと切に思いました。

最後の縮めの寮歌。北大応援団もお招きしていたので、両校による寮歌交換、団旗エールとなり、式典の最後を飾るに相応しい迫力あるものとなりました。客席からの大きな拍手もさることながら、舞台裏の係員の方から「商大応援団には感動した、格好良かった」との言葉に感無量の思いでした。

式典の準備、催行を通して、商大応援団の団員や団のOBだけではなく、団に関わった全ての方々が交流を深められ、その絆を更に強いものにされたように感じます。皆様にとりまして式典が、そのような意味と意義のあるものであったとしましたら、これに勝る喜びはありません。

最後に、式典開催にご協力いただきました皆様に心からの感謝を申し上げます。ありがとうございました。



衰えを知らぬ 純なハーモニー

小樽商科大学グリークラブ札幌OB会幹事

伊藤 文二

(昭和46年卒)

合唱の強みは、人が集まればすぐ楽しむことができることです。そこには道具は何も必要としません。一人ひとりが自分を楽器として音を奏でることができるからです。道端でも、小さな部屋の中でも、二人以上集まれば合唱がはじまり、500人以下の小さな会場でも1000人以上のコンサートホールでも発表の機会を得られます。札幌から汽車通で小樽に通っていた私は、よく列車のボックスで仲間とハモリを楽しんでいました。

また、歌は耳(=音感)が衰えさえしなければ、声が続く限り年齢制限は無制限です。先日平均年齢72歳という男声合唱団の演奏を聴く機会がありました。そこには華麗さは控えめながら、若者にはない円熟の響きが健在でした。

合唱を楽しむ上で発表の機会を得るといことは大きな魅力であり魔力でもあります。重厚な和音の中に自分を感じる瞬間は、表現の域を超えた充実感を味わうことができます。しかし社会に出てしまうと、発表はおろか合唱を楽しむ機会にもなかなか恵まれません。それでも現役の学生が大人数で活躍していた時代には、地元に住んでいれば、私たちOBも周年の定期演奏会等の中で、かろうじてステージに立つことができました。ところが現役の活動が低迷する今となっては、発表の機会を作るにはOBが主体となって演奏会を企画せざるを得ません。そこで私たちは2008年以來2度の演奏会を経て、今年**7月19日(日)午後3時**から**札幌市民ホール**(テレビ塔向かい、元の札幌市民会館)にて「**創部95周年演奏会**」を開催する運びとなりました。現在月2回、充実した練習を重ねている地元から40名、東京を中心とした本州勢は30名、約70名のOBが札幌に集まる予定です。もちろん、現役学生(グリー & カンタール)の発表の場面もあります。会場は1500人と充分な収容力がごございますので、多くの同窓生やそのご家族にご来場いただき、戦前・戦後・平成生まれの卒業生が集う、学生時代と変わらぬ“純”なグリーンヒルハーモニーを是非ご堪能ください。



年度幹事の役割は 「世代間仲人」

山中 利浩

(平成2年卒)

昨年2月に前年度幹事代表の喜多村悟先輩よりお声掛けをいただき、新年交礼会へ初めて出席した際、昭和卒の先輩のパワーに圧倒されたと同時に、「平成卒組の出席は意外と少ないなあ。」と感じました。**昭和卒の諸先輩**は札幌のビジネスシーンにおいても、**その存在感、影響力は絶大**です。我々平成卒組は、先輩の七光で仕事が出来ていると言っても過言ではないと思います。

一方の「平成卒」世代の皆さんは一見「草食系?」の方でも、実はハートが熱く、仕事に対する思いも強い**熱血漢**が多いと感じます。年度幹事は、各行事の運営のお手伝いだけではなく、「昭和卒」の諸先輩の皆さまと、「平成卒」世代の皆さんとの橋渡しをするいわば「**世代間仲人**」としての役割が大きいのではと考えています。

「平成卒」世代の皆さんは、緑丘会の行事に積極的に参加し、諸先輩に自分のビジネスに関することを含め、どんどん相談すべきだと思います。「同窓会にビジネスを持ち込むのはタブーでは?」という考えもあると思います。しかし、私達は商大でビジネスの基本を四年間学んだ先輩・後輩である訳ですから、何も遠慮することはないと個人的には考えます。(反対のご意見もあろうかと思いますが、一つの考え方としてご容赦いただければ幸いです。)

社会人として仕事をしていくうえで、**人脈は大切な財産**の一つです。官民に亘る各業界に人脈が増えれば、職場の中での評価や立ち位置はおのずと変わります。その意味で、緑丘会は自分自身を成長させてくれる場であることは間違いありません。

私もそうでしたが、緑丘会の行事への参加が、様々な出会いのきっかけとなると思います。

特に「平成卒」世代の皆さんは**平成27年2月11日**の**新年交礼会**へ、**連絡の取れる方々と一緒に**是非ご出席してみてください。必ず、有意義な時間となると思います。また、皆さんが気軽に交流ができるよう、昭和62年入学の八十島忍さんが、Facebookに様々な情報を掲載してくださっています。是非、検索してみてください。定期・不定期の有志による飲み会やイベントも多数開催されており、世代を超えた交流の場となっています。まずこちらで雰囲気を確認してみるのもひとつかと思ひます。



2014年6月14日年次大会終了後の有志主催二次会にて

—キャンパス情報—

マジプロ「緑丘会ネットワーク強化チーム」

小樽商科大学経済学科4年 藤井 義隆
 同企業法学科4年 南谷 耕平・土島 啓夢
 同社会情報学科4年 ゴンボジャブドルジプレブ

私たちはマジプロの「緑丘会ネットワーク強化」というチームに所属し、活動しています。チームの活動目標は、緑丘会のネットワークのさらなる強化です。商大は100年以上続く歴史のある大学であり、これまで素晴らしい功績を残してきました。この活躍は同窓会である緑丘会の協力なしでは、成しえなかったことだと思います。私たちは緑丘会、卒業生、在校生のつながりをさらに強固にし、商大の価値を高めていきたいと思っています。

まず私たちが着目したのは、若年者の緑丘会加入率の低さです。若年者といっても層がありますが、ここでは私たちと同年代あたりの人たちを指します。この加入率の低さには理由が2つあると考えました。一つは緑丘会の活動を在校生が知らないことです。これは私たち自身も感じるどころでした。3、4年生は就職活動などで緑丘会と関わることがあると思いますが、それまではほとんど緑丘会と直接関わることはないと思います。2つめは緑丘会に入るメリットがわからないことです。これら2つの問題点の根底には、在校生へ緑丘会の活動をうまくPRできていないことがあります。これらを完全に解決することは難しいですが、商大にある掲示板、学生がよく利用する図書館で、緑丘会が具体的に何をしているのかをはっきり示した掲示物を定期的に更新するような、地道な活動が必要だと私たちは考えました。現在それを実行するため提携先と協議中です。

私たちは緑丘会主催の行事にいくつか参加させてもらいました。OB、OGの方たちから我々の活動に対する様々な意見・激

励を頂戴し、非常に有意義な日になりました。また様々な年代の方たちと交流でき、これから社会人となる私たちには非常に勉強になる日ともなりました。このような経験は緑丘会に入会することで得られることだと思います。人は自分とは違う人と出会うことで、様々な価値観に触れ、成長します。私たち商大生には緑丘会という場があるので、ぜひ活用してほしいです。若手の会員が増え、活動・交流が活発化すればおのずと緑丘会全体が盛り上がると思います。

私たちの単年の活動では劇的な変化は難しいです。ぜひこのプロジェクトを次世代へ継続してほしいと願っています。継続が必ずよい変化へと繋がるはずです。

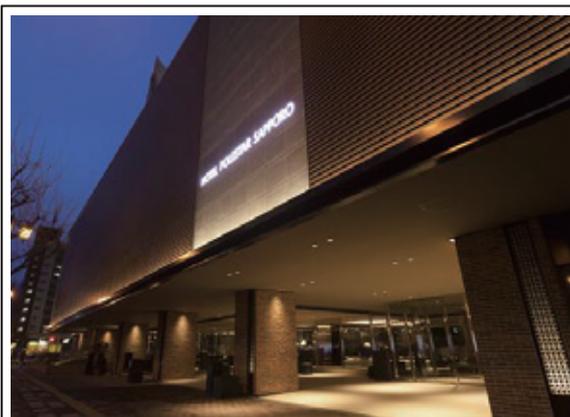
この場をお借りしまして、私たちの取材に快く引き受けてくださったOB、OGの皆様にお礼を述べたいと思います。ありがとうございました。



弓道部創部100周年記念祝賀会

平成27年2月28日(土) 17時から小樽倉庫No.1で行います。

詳細が決まり次第、支部ホームページでご案内申し上げます。



宿泊・宴会・会合・婚礼・法要など
 様々なシーンでご利用ください

快適な空間と質の高いサービスで皆様をお迎えいたします

— 館内のご案内 —

- 宿泊 197 室
- Garden Spa(ご宿泊者様専用大浴場)
- 各種ご宴会場
- Dining&Bar179
- 駐車場 76 台収容

北海道市町村職員共済組合宿泊施設



ホテル ポールスター札幌

〒060-0004 札幌市中央区北4条西6丁目 (011)241-9111(代表)

※当施設は地方公務員法第43条(地方公務員の共済制度)に基づく福利厚生施設です。

昭和39年卒 50周年記念同期会

神馬 康夫
(昭和39年卒)

昭和39年卒同期会は、50周年を記念して9月24日(水) ホテルグランドパーク小樽にて全国各地より30名の参加者により開催されました。

定刻の午後6時に梅野君の司会により開会が宣せられ、最初に26名の物故者の霊に黙祷が捧げられ、続いて代表幹事の広瀬君から節目の50周年の同期会が盛大に開かれたことに対し、感激の喜びに溢れながらの挨拶がありました。佐々木君の音頭により祝宴に入りましたが、50年ぶりに会った人もおり思い出話や近況などに話がはずんでおりました。小樽名物のシャコなどに舌つづみをうち、酒が進むと共に宴も進み、今回、参加できなかった会員から寄せられた近況が、三宅君から報告されました。その後、出席者から個性豊かにテーブルスピーチがあり、皆笑顔で耳を傾けていました。全員で校歌を斉唱し、盛会裡の内に記念大会を終了し別室での二次会となりました。

翌25日(木) 朝9時にホテルを出発して母校を訪問しました。お忙しい中を和田学長より実学の精神に基づいた教育研究と社会貢献について伺いました。その実学実践の教育としてのアクティブラーニングの説明を受けICT機器を用いた講義室も拝見しました。次いで、図書館、貴重図書室、史料展示室を見学し、立派な施設に感心すると共に、以前から感じておりましたが今更ながら蔵書の豊富さを再認識させられました。母校の創立百周年記念ビデオは今回初めての方も結構お喜びでした。

その後、旭展望台から小樽市街、小樽港を眼下に望むことができました。50年前にもこの景色を見たことを皆も思い出している様子でした。昼食は小樽市指定歴史的建造物である海陽亭で会食

しました。明治初期に開業した由緒ある料亭であり食事の後、女将から興味深い来歴を聞くことができました。

2日間に涉りこのような記憶に残る感動的な同期会に多大なる満足を覚えると共に母校の和田学長をはじめ、お世話を頂いた皆様に厚くお礼申し上げます。

尚、3日目、26日(金)は有志によりゴルフ大会を開催しました。快晴に恵まれ名門の札幌ゴルフクラブ輪厚コースで腕を競いました。優勝は、江塚紀久君、準優勝は、三溝憲治君でした。

[同期会参加者]

石川、伊藤(昭)、伊藤(昌)、磯尾、岩渕、内山、梅野、江塚、遠藤、大林、勝山、加藤、河原林、京谷、小林、後藤、榊原、佐々木、三溝、神馬、菅野、千葉、浜田、広瀬、藤田、益子、松川、三宅、安川、山口(30名)



卒業20周年記念同期会

鳴田 美抄子
(旧姓 久保・平成6年卒・演劇戦線)

平成26年10月11日(土) 小樽大和家本店において、私たち平成2年入学生は、「ほぼ卒業20周年記念同期会」を開催しました。

参加者は36名。当日は、3連休の初日で、札幌、小樽以外にも、根室、中標津、苫小牧、滝川、さらには、東京、中国広東省という遠方からも、懐かしの小樽に舞い戻ってきました。

宴の司会は、硬式庭球部で幹事長の研谷敦君。乾杯の発声は、自動車部で体育会会長の鎌田徹君が務めました。早速あちこちで楽しい会話が飛び交う中、フィリピン在住でCPUの土屋(旧姓近藤)さんとSkypeでつながりました。土屋さんが「ぜひ、みんなと乾杯したい」と言い、2回目の乾杯を全員でしました。こういう形での参加もとても嬉しく思いました。

そして、幹事で指名した方が、近況報告など挨拶をしました。懐かしい現役時代の話、そして学生のお酒の席での経験が、社会に出てからも生かされているという話。また小樽で集まりたいと嬉しい話が続きました。

宴の最後は、いつもの若人逍遙の歌です。前口上からのエールを、中国から駆け付けた、漕艇部兼応援団の加屋野学君が務めました。胸に響く口上の下にみな肩を組み若人の大合唱となりました。

そして、20年ぶりの再会を果たした一次会は、ゴルフ部の菊池正記君の一本締めで、終わりました。

二次会は、マルジェ・ナオ。31人とほとんどの方が出席しました。みな共通の思い出である、入学して初めての定山溪での研修、単位の取り方、水泳、スキー授業のことなどで盛り上がりました。また、ママの計らいで、出入り自由にしてもらい、現役時代お世話になったお店に挨拶に行く人達もいました。

三次会は、レノンセンスに場所を変え、より深い話に突入していききました…。

最後の締めは、久松と決めていたのですが、まさかの定休日。近くのラーメン屋でみんなのお腹を満たした後、それぞれ宿泊先へ帰って行きました。

また5年後10年後、こうした集まりを小樽で開催できたらいいなと思います。ご参加くださった皆様、また今回残念ながら欠席となった皆様、温かい言葉をありがとうございました。また必ず小樽で会いましょう。



32会「傘寿の会」盛大に開催

檜原 隆 司
(昭和32年卒)

一昨年6月「緑丘札幌支部」の総会後の二次会に集まったメンバーで第1回相談会を開き、折から話題になっていた三浦雄一郎氏の八十歳でのエベレスト登頂成功の快挙に因んで「ガンバル傘寿の会」と命名し、定山溪温泉「ぬくもりの宿ふる川」で秋の紅葉期に実施することを決め、その後数度の相談会・実行委員会で詰め、去る10月15日30名の参加を得て実施した。(内会員25名) 台風19号の襲来で本州からの参加者11名の出席が危ぶまれたが、何とか無事予定通り集まった。7月末頃には42名の参加予定が、本人や奥様の体調変化等で12人も減り、八十歳の壁を痛感した。

会の最初に、残念ながら既に物故された仲間63名の(180名中)冥福を祈り黙祷を捧げた。実行委員長中村典雄君は本会の成功と参加者への感謝、3年後の卒業60周年記念大会への思いを込めて挨拶、続いて篠崎義彦君の乾杯の音頭で祝宴が始まった。

通常でも豪華なホテルの食膳に加え特別食をプラス、メンバーから寄贈のあった日本酒「久保田」「国稀」「八海山」等の美酒もあり、飲むほどに話題は尽きず大変な盛り上がりを見せた。八十歳にしてなお現役バリバリの榎シズオク会長清水卓治君の苦労と成功のスピーチ、中本毅彦君の解説による過去12回の「写真で綴る記念大会の歴史」をプロジェクターで紹介する等の企画もあり

内容の充実した会となった。最後に大峽康治君の音頭で、進軍歌・校歌を皆で合唱、柴田哲治君の発声で中締めをして一次会は閉会した。

二次会では岡本守衛君の三線で引くプロ並みの腕前を持つ沖縄民謡をバックに話に花が咲いた。用意した酒類が半分以上余って、飲まなくなったことに驚いた。

オプションとして前日の囲碁・当日の駒丘コースのゴルフ・翌日の豊平峡ダム紅葉観光も企画され、会を盛り上げ楽しむことが出来た。

別れには、3年後の60周年記念大会を小樽で実施する時に、元気で再会することを誓い握手をし合って夫々の場を後にした。

(参加者名は2月発行の「緑丘」に掲載)



第8回 MBA交流会のご報告

緑丘会MBA会会長

佐藤 司 (OBS8期・平成25年修了)

■日 時：平成26年10月26日(日) 15時～

■場 所：札幌プリンスホテル(国際館バミール3階)

■参加者：大学院ビジネススクール(以下OBS) 教員10名、OBS卒業生(1期～9期) 40名、OBS現役生(10期、11期) 9名

■内 容：15:00 開 会

15:05 講 演 ・ 講演者：NPO法人北海道ワインクラスター北海道代表 阿部 眞久 (OBS7期生)
・ 演 題：「夢を力に」

16:05 ワインテイスティング

17:00 懇親会

当日は、講演者でOBS卒業生でもある阿部さんのアントレプレナーシップ溢れるお話に、OBS修了生として“忘れてはいけないもの”を思い起こさせていただきました。阿部さんの新たな夢である小樽を拠点とした旅行事業会社設立についてもお話があり、それに賛同や出資、寄付等の申し出も参加者からあるなど、MBA会や小樽商科大学ならではの特色やつながりを感じた講演会でありました。

また、講演に加え、阿部さんセレクトの白ワインのテイスティングは大変好評で気持ち会場も、とても盛り上がりました。そのテイスティングですっかりエンジンがかかったのか、第2部の懇親会も大変盛況でした。ご参加いただいた先生方、卒業生、現役生の皆さま、ありがとうございました。

皆さまもぜひ、阿部さんの夢を共にしてみませんか？

(ワインクラスター北海道 ☎011-633-6677)



緑丘ゴルフ会だより

●2014年度 緑丘会札幌支部 緑丘ゴルフ会 開催結果

開催回	日時(曜日)	会場	出席者数	優勝者(卒年)	準優勝者(卒年)
第1回	5月5日(祝・月)	茨戸カントリークラブ	24名	長田 仁 (平成16年)	吉田 基隆 (昭和47年)
第2回	7月19日(土)	札幌国際ゴルフクラブ 島松コース	20名	小関 公望 (昭和36年)	浅野 百樹 (昭和48年)
第3回	8月8日(金)	ツキサップカントリークラブ	15名	小林 明生 (昭和37年)	浅野 百樹 (昭和48年)
第4回	9月23日(祝・火)	札幌ゴルフ倶楽部 由仁コース	26名	小山 高史 (昭和49年)	木下 浩一 (昭和58年)

「壺中天有り」のままに

札幌緑丘囲碁クラブ

●平成26年度活動報告

- 5月18日 第2回定例会 上村囲碁道場 24名
- 9月21日 第3回定例会 日本棋院北海道支部 21名
- 11月16日 第4回定例会 日本棋院北海道支部 25名
- 11月23日 秋季知事杯戦 大通囲碁センター 二部リーグ 準優勝(8組中)

いつも世俗に囚われることなく自然体で楽しんでいます。初心者、熟練者を問わず常に門戸開放中、多くのご参加をお待ちいたします

緑丘サテライトセミナー報告

緑丘サテライトセミナー副委員長
福井 郁子
(昭和57年卒)

今年度の緑丘サテライトセミナーは第24・25回とも盛況のうち無事終了いたしました。

第24回緑丘サテライトセミナーは、7月5日に開催、昆野照美氏(昭和62年卒 カラーデザイナー・福祉住環境コーディネーター)によるセミナー「色で元気に!安全、ワクワク、脳力アップする色彩~高齢社会における色彩の工夫~」では、色が私たちの生活に与える影響・効果を考える良い機会になりました。参加者は25名でした。その後、14名の参加者の方々と昆野氏を囲んで昼食会を開催いたしました。

第25回緑丘サテライトセミナーは、11月8日に開催、舟

本秀男氏(昭和41年卒 株式会社財界さっぽろ代表取締役社長)によるセミナー「榎本武揚および箱館戦争の時代背景」では、小樽の「梁川通り」という地名でも大変ご縁の深い「榎本武揚」と「箱館戦争」の時代背景について知ることができました。参加者は32名でした。その後、20名の参加者の方々と舟本氏を囲んで昼食会を開催いたしました。



今後も、当緑丘サテライトセミナー委員会では、多様なセミナーを企画したいと思っております。皆様のご参加よろしくお願いたします。

女子部会報告

福井 芙美子
(昭和54年卒)

1. 報告会 なぜ今カンボジアなのか

平成26年5月15日(木) 18:30~19:30

報告者: 長岐沙奈美さん(経済学科4年 大津ゼミ)

大学を休学し、日本企業向けカンボジア進出支援コンサルティング会社で勤務。発展著しい首都プノンペンでジャパンストリートを作るプロジェクトや、カンボジア人向けのビジネスセミナーなどの企画を行う。大学時代の経験を活かし、現地の学生にYOSAKOIを教える活動も行っている。なぜ今休学してまでカンボジアに行くのか、アジアの今、そして世界に出て就職するという『せか就』の現状の報告をいただきました。OBを始め就中の学生も参加、良いアドバイスを戴く機会となりました。

2. 読書会 はじめて読むドラッカー

平成26年8月2日(土) 10:00~12:00

講師: 佐藤 等氏

(昭和59年卒 佐藤等公認会計士事務所代表)

事前にテキスト「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら」を読んで気になった箇所を発表し、それについて先生よりコメント、解説をいただくゼミ形式で行わ

れました。初心者の素朴な疑問から専門的な質問まで、丁寧に解りやすく答えていただきました。限られた時間の中、参加者全員に発表する機会があり、大変充実した2時間となりました。

3. 第2回クリスマス会

平成26年12月6日(土) 12:00~14:30

会場: TKPガーデンシティ札幌駅前(北2西2)

昨年に続き、有志の会と共催でクリスマス会を実施しました。家族連れで参加できるイベントとしてリピーターも多く、2才から70代まで53家族77名の方にお集まりいただきました。サンタやトナカイが登場し、おたるクイズやクリスマスソングの合唱など、世代を超えて楽しい時間を過ごしました。



平成26年度 エバーグリーン講座 日程

	月日	氏名	卒年	講演テーマ	現職等
1	10月 1日	オリエンテーション		「講義説明」・「緑丘会説明」	大津晶(コーディネーター) 緑丘会実行委員
2	10月 8日	吉田 理 宏	昭和61年卒	20代で成長し30代で輝くための、会社の選び方・働き方	WAYOUTカンパニー(株)代表取締役
3	10月15日	尾形 毅	平成元年卒	東日本大震災から3年、被災地・宮城の復興に取り組む	(株)仙台銀行経営企画部長、仙台緑丘会副会長
4	10月22日	下斗米 寛 泰	昭和45年卒	販売の最前線	札幌通運(株) 代表取締役社長(元損保ジャパン)
5	10月29日	沼田 博 光	昭和63年卒	北海道を世界に売り込み! 地方テレビ局の挑戦	北海道テレビ放送(株) 営業局国際メディア事業部チーフマネージャー
6	11月 5日	黒川 博 昭	OBS在学中	会社の経営に関する失敗? 中心の昔話	富士通(株)顧問、同社元代表取締役社長
7	11月12日	立川 志の春 (ゲストスピーカー: 卒業50周年寄贈講座)		英語による落語講演「世界に誇れる日本の笑い~落語~」	立川志の輔 門下 二つめ、イェール大学卒業、三井物産勤務
8	11月19日	田中 康 浩	平成19年OBS卒	アセットマネジメント(資産運用) ビジネスとその使命~日本に長期投資は根付くのか~	DIAMアセットマネジメント株式会社 投資顧問部門 業務開発グループ 課長
9	11月26日	小笠原 莊 介 (原 莊介)	昭和38年短大卒	原 莊介のギターと唄人生 (湯の町エレジーから日本の子守唄まで)	ギタリスト
10	12月 3日	中山 晴 樹	昭和46年卒	企業人としての歩み、大学人としての歩み、企業と大学に共通する改革の成功事例	大阪成蹊大学マネジメント学部長(元松下電器産業(株)、スペイン松下電器、松下ロジスティックス)
11	12月10日	加藤 ひろみ	昭和55年卒	女性の生き方は自由自在	税理士法人アグス 社員税理士
12	12月17日	昆野 照 美	昭和62年卒	好きなことを形に ~キャリアチェンジやワークライフバランス~	C. W. I (カラーコーディネーター 自営)
13	1月21日	西 祐一郎	平成2年卒	Collective Intelligence (集合知) による新しい天気予報	株式会社ウェザーニューズ iCorner グループリーダー
14	1月28日	三上 淳	平成8年卒	卒業までにゼツタイ身につけておいた方が良いビジネススキルベスト3	かもめソリューションズ 代表/プロコーチ
15	2月 4日	岩見 真 彦	平成元年卒・OBS在学中	ソニーは復活できるか	みずほ銀行札幌支店 個人営業1課 課長

平成26年度支部会費 納入状況

平成26年11月30日現在

卒年	会員数	納入数	卒年	会員数	納入数	
昭和13	3	1	昭和54	65	13	
昭和14	1	0	昭和55	38	15	
昭和15	1	0	昭和56	31	7	
昭和16	5	3	昭和57	34	11	
昭和17	8	3	昭和58	24	6	
昭和18	10	0	昭和59	43	5	
昭和19	13	3	昭和60	34	6	
昭和20	13	4	昭和61	32	4	
昭和22	5	3	昭和62	30	5	
昭和23	28	8	昭和63	23	1	
昭和24	13	3	平成1	22	1	
昭和25	26	12	平成2	20	1	
昭和26	11	5	平成3	18	3	
昭和28	25	12	平成4	26	0	
昭和29	30	15	平成5	24	2	
昭和30	36	16	平成6	31	1	
昭和31	38	21	平成7	32	7	
昭和32	42	28	平成8	23	3	
昭和33	32	18	平成9	19	0	
昭和34	37	26	平成10	16	1	
昭和35	24	10	平成11	10	0	
昭和36	30	11	平成12	17	3	
昭和37	24	11	平成13	64	3	
昭和38	32	11	平成14	66	4	
昭和39	28	12	平成15	123	3	
昭和40	31	14	平成16	57	5	
昭和41	33	10	平成17	50	0	
昭和42	30	3	平成18	46	1	
昭和43	27	13	平成19	23	1	
昭和44	23	8	平成20	31	3	
昭和45	43	33	平成21	28	6	
昭和46	34	7	平成22	27	0	
昭和47	28	10	平成23	24	1	
昭和48	31	8	平成24	37	3	
昭和49	38	8	平成25	36	1	
昭和50	28	6	平成26	44	0	
昭和51	38	8	小計	2,242	510	
昭和52	34	10	短大	231	23	
昭和53	41	10	大学院	26	6	
				合計	2,499	539

亡くなられた会員の皆様 (平成26年5月～11月受付)

卒年	お名前	ご逝去日
昭和14年	黒田 四郎	2013年 5月26日
昭和14年	鈴木 茂	2014年10月29日
昭和16年(後)	鎌田 卓哉	2014年 2月21日
昭和16年(後)	成田 千二	2014年 7月 3日
昭和18年	黒田 勲	2014年 3月13日
昭和19年	岡部 卓司	2014年 9月29日
昭和19年	小川 一夫	2012年12月17日
昭和20年	坂東 尋克	2014年 6月 8日
昭和22年	辻内 祐二	2014年10月 9日
昭和23年	追分 宏	2014年 3月15日
昭和25年	鷺平 勉	2014年 7月16日
昭和25年	水野 博	2014年 2月16日
昭和26年	梅村久良昭	2012年12月 1日
昭和28年	赤沢 正一	2014年 8月28日
昭和28年	小野寺泰三	2014年10月 1日
昭和30年	早川 治男	2014年 8月21日
昭和30年	西山 克之	2014年 8月31日
昭和31年	恵木 満春	2014年 5月22日
昭和31年	長谷川秀夫	2014年 7月 1日
昭和32年	城戸 忠夫	2014年10月17日
昭和32年	星 真太郎	2014年 4月 2日
昭和33年(短)	木村 實	2014年 1月
昭和34年	山兎 端正	2014年 7月 5日
昭和34年(短)	高松 信夫	2014年 6月 4日
昭和35年	本前勝支朗	2014年 8月22日
昭和37年	山田 充	2013年10月10日
昭和37年	石山 治孝	2014年 6月30日
昭和38年	久才 敏雄	2014年10月20日
昭和41年	白濱 尚三	2014年11月 9日
昭和47年	坪田 光司	2014年 5月 8日
昭和58年	渡辺 一弘	2014年10月15日
平成 8年	前田 陽子	2013年 9月 7日
平成10年(院)	小林 謙三	2013年12月 3日
平成13年	木村 弘宣	2014年 2月27日

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)

編集後記

緑丘会ってなんだろう？ 人が集うコミュニティが多種、多様化している今、この難解な問いかけに対し、自分なりに答えを見つけるに至ったエピソードを3つ紹介します。

26歳の時、某都市銀行に就職した商大同期のS君が、試験に合格しロンドンに語学研修に行ったと風の便りに聞いた。同じく海外志向だった私も、負けじと猛勉強して翌年、それまで連敗続きだった選抜試験に合格し語学研修へと向かう。卒業以来一度も会っていないS君に背中を押された。

また、32歳の時、商大1年上の先輩が、某銀行同期のトップで課長となり大活躍していると人づてに聞いた。学生時代の気弱さからは想像できなかった。その2年後、香港支店・課長として部下を持ち、管理職の難しさに直面した私は、先輩の話を思い出し元気づけられ、励まされた。この先輩とも卒業以来32年間、一度も会っていない。

さらに、49歳の時、某電機メーカーに就職した商大1年下の後輩T君が、上海の現地法人社長との人事異動を新聞で見つけた。大学時代の彼からは海外など想像もつかなかったが、相当努力し、苦勞して語学を磨き混乱の中国へ飛び込んで行ったと後から知った。当時ドコモの中国担当で上海現地法人の役員を兼務し、中国ビジネスの難しさを目の

当たりにしていた私を鼓舞するのに十分すぎるニュースだった。

大学の同窓に関わる便りは、たとえ何年も会わなくとも、その活躍ぶりを知るに至り、20代、30代、40代の自分を励まし、鼓舞し、時には活を入れてくれた。同期がこんなに頑張っている、あの先輩がここまでやっている、後輩が苦勞しながら大活躍している、これほど自分を元気づけてくれるものはない。そう言う便りが緑丘会を通じて同窓に伝わる。また、励ましてくれた同期、先輩、後輩に対し緑丘会を通じて今度は自分が恩返しをする。同窓会の意義こそ、私はそこにあると信じています。波瀾万丈のサラリーマン人生のその時々において、自分を励まし、鼓舞し、活を入れてくれた緑丘の同窓に恩返ししたい。微力ながらそういう気持ちでご支援できればと思っています。

平塚 彰 (昭和57年卒 広報委員)

緑丘会札幌支部

電話/FAX: 011-231-6900

ホームページ <http://www.ryokyukai.com/>

メール: ryokyukai@galaxy.ocn.ne.jp



緑丘会札幌支部は、会員の皆様の会費によって運営されています。

緑丘会本部会費とは別に、札幌支部会費として年額3,000円を申し受けております。前納によるお得な割引制度もございます。

新年交礼会の受付でもご納入いただけますので、ご協力よろしくお願い申し上げます。